

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100220		
法人名	株式会社ワタナベ		
事業所名	グループホームゆふの郷		
所在地	福岡県福岡市南区長丘1-4-37		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果確定日	令和5年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和4年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

「高齢者が主体的に選択出来る生活の場を創る。」を実現する為に母体である調剤薬局との協議を行い、自宅内、施設において1人1人のイメージにあった介護を目指しています。「みんな家族だ、ゆふの郷」をキャッチフレーズにおき、ご利用者様のペースを大切に、ご家族様のお気持ち寄り添える施設をめざしていく。ご家族様と心一つにし、地域や関係機関との関わりの中で利用者様に安心して過ごして頂けるように努めていく。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームゆふの郷」は、平成26年12月に開設(8年になる)された。1階に小規模多機能施設を有する建物の2・3階部分にて2ユニットで展開する。母体は調剤薬局だが、福岡県内数ヶ所に施設を有するなど、介護事業にも力を入れている。大池通りに近い商業地域だが、近くには寺塚穴観音や公園などがある。新型コロナウイルス感染拡大の懸念から家族の面会や行事の中止などさまざまな場面で制約が生じている状況もあるが、その中で「みんな家族だ」の事業所の理念に基づいて「ユマニチュード」を推進、利用者がその人らしく生活ができ、自信と生きがいを持って過ごせるよう、職員も一丸となって支援を続けている。中止していた運営推進会議をリモートで再開するなど、コロナ収束に向けて動き出している。今後も地域の中でともに発展する活躍が期待される事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意義は理解出来ているも地域へ中々発信が出来ていない。	法人の企業理念、福祉事業部の理念に加え、接遇5原則「整理」「整頓」「清掃」「しつけ」があり、事業所としても、「みんな家族だ」という理念を掲げている。事務所内などに掲示するなどして、職員全員での共有に努め、ケアの実践に生かしている。各自の個人目標を立ててそれを見直す時や、必要時に行う管理者との個人面談を通して振り返る機会がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の眼鏡屋さんから施設にて無料の視力検査をして頂いている。	コロナ禍の中、地域の方との交流は難しい状況が続いており、敬老会などの催しは施設内にて職員と利用者のみで行っているが、それでも小学生との手紙のやりとり、ボランティア(楽器演奏やフラダンス)との交流、実習生の受け入れ、隣人(梅の実を頂く)や地域の眼鏡屋(無料視力測定)の訪問などがあり、地域の一員としての役割を念頭に置いている。	コロナ感染拡大の懸念が払拭されるまでにはまだ時間を要すると思われる中、引き続き無理のない範囲で工夫をして地域との交流を図り、またやがてはイベントには家族や地域の方を招くなどして盛り上げたり(3年前には秋祭りを行った、と聞く)、ということが実現できるよう、構想を練り準備していただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へは活かしかれていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルスの影響から開催が遅れており、現在早い開催に向け、小規模管理者と話し合い中である。	もともとは2ヶ月に1回の開催が定着していた(ヒヤリハット、事故報告、併設する小規模多機能施設も併せて事業所の取り組みについての報告、意見交換などを行っていた)が、新型コロナウイルスの状況を考慮して、3年近く開催を見送っている。令和5年1月にはリモートでの開催を予定、自治会長・ネットワークの関係者・包括職員・高齢者施設の職員らに声を掛けている。	令和5年1月にリモートで開催予定との事だが、今後コロナが収束して継続できれば、これまで以上に充実した会議になるよう、出席者や開催日時、テーマの選定(事業所の母体が調剤薬局でもあり、認知症などの薬の情報をテーマにするのはいかがか)などの構想を練って取り組んでいただきたい。 また、開催できない状況がさらに続くようであれば、書面での開催のようなスタイルで、いったん文書で現状や問題点などの報告を行い、可能であればそれに対する意見や提案を募ってみるのも良いと考えます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組んでいる。	コロナ対策に関する相談、保護課とのやり取り、諸書類(事故報告等)の提出や報告(空き情報等)などで関わりがあり、円満な協力関係は保っている。コロナ禍にて、訪問はなるべく控え、電話やメール、郵送で済ませる事が多くなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設や転倒の可能性があるご利用者様に対し必要時身体拘束の研修を開き、意義を理解して頂き、出来るケアを行っている。	身体拘束をしない方針である認識を職員は共有している。身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催、またユマニチュード技法やスピーチロックなども含めて内部研修を開催する。離設を防ぐために、鍵にカバーを付けて工夫をしたり、必要な場所にはセンサーを使用したり、またベッドからの転落を防ぐためマットを敷いたりするなど、職員が注意を行っている。	

R4.12自己・外部評価票(グループホームゆふの郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行っている。利用者様を観察し変わった様子がないか注意をしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	心掛けている。	現在、制度の利用者はないが、職員は内部研修を通して認識を深めている。今後求めがあった場合に備えて事業所内にパンフレット等は常備しており、必要時には管理者主導で説明や手続を行う体制が整っている。	講師派遣やDVDレンタルなどが、研修に役立てられるのではないか、と考えます。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改定時、説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望は聞いているが、外部者へ表せる機会は出来ていないことが多い。	コロナ禍にて家族の面会も自粛せざるを得ない状況だが、お便り(個別に毎月発送。写真や担当者からの一言を添えている)や電話、LINEなどで連絡を取り合い、またプラン更新時には極力直接の会話を心掛けている。投函はないが意見箱も設置した。要望や意見などのすくい上げに努めており、それを職員が共有して日常のケアに生かしている。	年1回でも、単発でも良いので、事業所独自のアンケートをとって、意見や要望を募るのも良いかと考えます。 コロナの状況で、面会の制限(現在は週1回、1回15分程度)が続くのであれば、リモートでの面会を考慮してはいかがでしょうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で意見・要望を聞き、改善に取り組んでいる。	事業所全体のミーティング・ケアカンファレンスには、基本的に職員全員が参加、情報も共有されている。意見も言いやすく、改善できる点は速やかに取り組まれている。管理者とは個人面談の他、日常的に相談しやすい雰囲気があり、風通しが良い環境になっている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実績を見て、上司に報告をしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	配慮している。	職員の年齢層は40歳代～60歳代後半まで幅広い。事業所として、職員の資格取得や外部研修参加にも前向きであり、スキルアップにも努めている。希望の休みやシフトなどへの考慮、休憩時間・場所の確保などもあり、メリハリのある勤務ができる。職員は個々の能力や特技を、歌、レクリエーション、作品作り、飾り付けなどに活かして、生き生きと意欲的に仕事をしている。	

R4.12自己・外部評価票(グループホームゆふの郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修にて、定期的に取り組んでいる。	全社で「ユマニチュード」を推進しており、職員は利用者の個性(その人らしさ)を大事にして接するように心がけている。法令遵守などまでテーマを広げて、幅広い意味の人権教育・啓発活動に関する研修を行って、全員が理解を深めている。権利擁護や虐待防止などの研修と合わせて、利用者に対する人権教育に取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体研修はコロナウィルスの影響で出来ておらず、各事業所での研修となっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ会社とおしはあるも、他の事業者の方とは出来ていない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の安心感が1番と感じているので、出来る限り努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	寄り添い不足もあるかもしれないが、気を配り行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日頃の状態を観察しサービスが必要な時は本人・ご家族様にご相談しながら行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添う介護を目指し、1人1人個性を大切に介護を行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との関係を大切に相談しながら行っている。		

R4.12自己・外部評価票(グループホームゆふの郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの関係で難しくはなっているが面会可能な時は知人の方にも会って頂いている。	コロナ禍のため、家族の面会や友人らの来訪も制限せざるを得なくなっている。その中で職員は、収集している情報(昔の仕事や住まい、よく行った場所のことなど)から懐かしい話をするようにしている。また、小学生との手紙のやりとりを含め、電話や手紙で連絡を取り合うかたちでの支援を行っている。	2ヶ月に1回訪問理美容を利用しているが、もし昔馴染みにしていた店があれば理美容に限らず、コロナ収束の折には、家族の協力を得て訪ねてみる機会を作ってみていただきたい。
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の様子をみながら寄り添い支援をしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームは看取りで退去の方が多く必要な方は退去後もご家族様と交流をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・ご家族様と寄り添いながら出来る限り行っている。	アセスメントは独自の様式を使用。家族から聞き取った、利用者のこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、不安な事、要望などの情報を記録に残す。新規利用者については事業所の情報提供を添える。見直しの際は、現場の職員の意見も聞き取って反映させる。職員は様々な立場で本人の思いや意向を引き出そうと努めるが、難しい方には表情やしぐさを考慮して、快適に過ごしてもらえるような意識をもって対応している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入浴時・入居後も会話を通じて把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活をみながら現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期・長期介護計画切れ・又は入院・事故など必要時にカンファレンスを行い、計画作成をしている。	ケアプラン作成、モニタリングなども基本的には現場の担当職員の意見を取り入れながらケアマネジャーが作成し、6ヶ月(短期)～1年(長期)ごとに見直しも行う。その際には、日々の個別記録やカンファレンスで上がった内容の他、家族からの情報、医師ら関わる人への照会に対する回答などを盛り込む。ケアプラン上の目標達成のチェックを実施記録の中で行ってモニタリングに繋げる。全職員で共有が図れている。	

R4.12自己・外部評価票(グループホームゆふの郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録・申し送りを通し、スタッフ通しが情報共有を行い、必要な介護のやり方を実践に繋げている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時で合わせたケアが出来る様に話し合いながら行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に向けてが中々出来ていない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診・異常時ご家族様に現状を相談しながら、あった医療が受けられるようにしている。	事業所の提携医をかかりつけにして訪問診療を受けている方が多いが、1名は利用開始前からのかかりつけ医を続けている(訪問診療あり)。物忘れ外来や他科を受診する際には原則家族に通院介助してもらう(事業所から支援することもある)。事業所には看護師の配置もあり、日常的な健康管理に加え、急変時などの医師との対応がなされている。情報は事業所内と家族にて共有しており、家族の安心につながっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気が付いた時に看護師の報告し連携が取れている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連携をし行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際、主治医・ご家族様と話し合いその方・ご家族様にとって1番良い方法を話し合いながら事業者内で出来る事も踏まえ相談しながら取り組んでいる。	重度化・終末期の指針のもとで対応、昨年2名を看取っている。契約(利用開始)時に加え、重度化の際に改めて書面にて同意を得る。必要時には早い段階からこまめに遺漏のないよう家族や主治医らと何度も協議を行って方向を確定する。管理者を中心に、24時間対応可の提携医、事業所に配置されている看護師らとのチームで支援に取り組む。研修(カンファレンス)もなされている。	

R4.12自己・外部評価票(グループホームゆふの郷)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通し学習は行っている。	
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員には訓練しているも地域との連携とれておらず、これからの課題である。	年2回(1回は消防、1回は建物の管理会社が立ち会う)、主に夜間の火災を想定して避難訓練を行い(小規模多機能施設と合同)、消防への報告を行っている。避難誘導や水消火器・警報器などの取扱方法を理解して実践したり、避難経路や場所を確認したりする他、日常的にマニュアルや防災マップの整備に努めている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を意識して言葉掛けなど注意して介護にあたっている。	声掛けや言葉かけなども含めたコミュニケーション、接遇やマナー、モラルに関して研修を行い、また日常的に管理者ら幹部職員から、または職員相互にて、注意喚起を行っている。目線を合わせる、触れるなどケアの基本をユマニチュードを通して学習し、実践に繋げている。個人情報に伴う写真の利用に関しては家族から書面で同意を得るようにしているが、同意を得られない方の取扱には細心の注意を払っている。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな事など本人の希望に耳を傾けている。	
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間など業務をこなす事が先にならないように意識して行っている。	
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日身だしなみは行っているも、ご家族様に以前の様子を聞きながら、毎日とは言えないがその人らしくオシャレをする時機会も心がけている。	
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の状態にあわせて形態を工夫している。季節の行事・時々機会をみて出前をとったり工夫をしている。出来る利用者様に食器洗いなどお手伝いをして頂いている。	業者からの調理済み食材の配食としており、加熱・盛り付けに加え、炊飯を事業所にて行う。日曜の朝食はパンにしており、また行事食など事業所で作る事もある。食事形態(ミキサー、刻み、トロミ付など)や療養食(アレルギー、減塩など)、嗜好への対応もできる。利用者にはテーブル拭きなどを手伝ってもらう時がある。職員は別の場所で違う物を食べるが、介助しながら見守る職員は食事の時間が楽しいひとときになるよう努めており、同時に好みや感想なども聞き取って反映させている。

R4.12自己・外部評価票(グループホームゆふの郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態にあわせ、看護師と相談しながら形態・量・提供時間など工夫をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア・希望者のみ歯科往診医をいれている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛けやその人の尿意があった時のパターンを把握し必要な誘導を行い、支援している。	トイレは各ユニット3ヶ所あり、介助に十分な広さがある。夜間ポータブルトイレの使用もある。職員は排泄チェック表を使って、利用者ごとの排泄時間や状態をチェック、情報を共有して、適切な時間に対応を行い、また誘導時間の間隔、パンツなどの変更などを適宜話し合っ改善につなげる材料として役立てている。自立に近い方もいるが、逆に全面的な介助を要する方も少なくなく、そうした方であっても毎回でなくても良いのでトイレで排泄できるような支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にて腸閉塞など疾患に対しての理解をスタッフに伝え、運動や飲み物の提供など出来る事をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は曜日を決めて行っているも、気持ちの状態や体調の状態をみながら行っている。	3階はユニットバスだが、2階は機械浴にて、それぞれのユニットにこだわらずに調整をする。基本的には週2回、なるべく午前に入浴をする(気分が乗らない時や体調によっては午後も行おう事がある。随時対応も可能ではある)。個浴で湯は毎回入れ替える。脱衣室・浴室とも暖房がある。拒まれる方のためには時間や職員をチェンジして対応する。職員はプライバシーにも配慮しながら、コミュニケーションの場として入浴を楽しんでもらうが、同時に皮膚疾患など身体観察の場としても役立てている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人のペースに合わせて、安心感が安眠の要素にもなるので、必要に応じた支援をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師と看護師の連携のもと、内服管理、症状管理・報告を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでしてきた趣味など出来る事をして頂いている。		

R4.12自己・外部評価票(グループホームゆふの郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナウィルスの影響で出来ない時が多いが、本人とご家族様の希望のもと行う時もある。	コロナ禍にて制約が生じており、用心のために控えている状況にある。日頃は病院受診(通院)程度の外出、2回のテラスでの外気浴程度に限られているが、秋には近くの公園まで出掛けて、紅葉見物を行うことができた、と聞く。状況が変われば外出を思い切り楽しませたい、と職員は思っている。	職員より、状況を見てではあるが、新年の初詣に行ってみたい、との話がある。コロナ収束の折には、外出支援を、できれば家族や地域の支援を仰ぎながら、楽しく行っていただくことを期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様管理となっており、必要なものは施設側が立替となっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方もあり、葉書きが届く方もおられ、今出来る支援は行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な空間にはならないように心がけてはいる。模造紙や壁に季節の物を貼るなど工夫をしている。	ユニットは2・3階に分かれている。木目調のフローリングの床張りの空間は、明るい日差しがたっぷり差し込み、明るく開放感があり、その中で利用者はソファなどで思い思いにゆったりと過ごす。温度や空調にも気を配っており、快適に過ごせる。飾り付けはシンプルではあるが、作品の展示などにより、季節を感じる事もできる。また2階のテラスではプランターで花を育てている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机の座る場所の工夫など気を配っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人が安心する物とご家族様にはお話ししています。お写真を持ってきて頂いたり、趣味のものなど工夫はしている。	居室の入口(表札)は植物の名前が描かれている。フローリング床の居室には、ベッド・収納・エアコンが備え付けられている。家族や思い出につながる写真や、筆筒や引き出し、遺影、絵やコーラスといった趣味の道具類など、使い慣れた愛着のある物、懐かしい物を思い思いに持ち込むことができる。職員は、日頃の掃除に加え、安全に移動できるようなレイアウトにも気を配っており、落ち着いて居心地よく過ごせるような配慮がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時など安全に活動ができるように工夫をしている。		